

浪江町内水ハザードマップ

令和6年7月作成

保存版

この内水ハザードマップは、想定される最大規模の降雨により、下水道などが雨水を排水できなくなった場合に浸水が想定される区域や浸水の深さを示すものです。

内水ハザードマップの想定条件

国の基準で定められている想定最大降雨量 120mm/h で作成したものです。
(参考:令和元年東日本台風の浪江町における最大雨量は41.0mm/hです。)

ハザードマップを活用しましょう

雨の降り方に応じて内水ハザードマップと洪水ハザードマップを使い分けましょう。

① 雨が降り出すと

徐々に河川や水路の水位が上がります。小規模な水路ではあふれる場合があります。

② 雨が強く降り続けると

雨の量が下水道などの排水能力を超えたり、排水先の河川水位が上昇することでスムーズに排水できなくなり、側溝やマンホールから水が逆流して浸水(内水はん濫)が発生するおそれがあります。

③ 更に雨が激しく降り続けると

大雨によって河川の水位が上昇し、堤防を越えて水があふれたり、堤防が決壊するなどの洪水(外水はん濫)が発生するおそれがあります。

雨が降り出したらまずは内水ハザードマップを確認!

たとえ短い時間であっても、強い雨が集中して降る(いわゆるゲリラ豪雨)の場合、内水はん濫が生じるおそれがあります。

河川はん濫するおそれがあるときは洪水ハザードマップを確認!

内水はん濫の浸水想定区域外であっても、河川決壊などに伴う浸水(外水はん濫)が生じる場合があるので注意しましょう。

その他、町が作成しているハザードマップ

町内で発生するおそれがある他の災害にも注意しましょう。

マイ・タイムラインの作成

台風や大雨のような風水害はあらかじめ接近を予測できる災害です。大雨時に「いつ」「だれが」「なにをするのか」を家族と話し合って決めておきましょう。

警戒レベル	①必要な行動にチェックをつけましょう。	②その他必要な行動があれば、空欄に記入してください。
5 緊急安全確保 (町が発令)	☒ テレビやラジオをつけたまま防災気象情報を確認 ☒ 外に出ず、自宅内の少しでも安全な場所へ避難 ☒ 自主防災組織へ安否報告	☐

<警戒レベル4までに必ず避難!>

4 避難指示 (町が発令)	☒ 防災情報を確認 ☒ 避難所や安全な親戚・知人宅に避難 ☒ 自宅の2階へ避難 (2階まで浸水が及ぶ場合は避難所などへ避難) ☒ 自主防災組織へ避難の報告	☐
3 高齢者等避難 (町が発令)	☒ 避難所の開設状況の確認 ☒ 防災情報を確認 ☒ 非常時持ち出し品を手元に準備 ☒ 避難を開始 ☒ 自主防災組織へ避難の状況報告	☐
2 大雨・洪水高潮注意報 (気象庁が発表)	☒ 避難方法と避難先の確認 ☒ 避難先(親戚・知人宅)に連絡 ☒ 避難に時間がかかる方は避難の準備 ☒ 避難しやすい服装に着替える	☐
1 早期注意情報 (気象庁が発表)	☒ 天気予報を確認 ☒ 自宅や周辺を確認(家の点検・補強) ☒ 家族の予定を確認 ☒ 非常時持ち出し品と備蓄品の確認	☐

コラム(地域の防災訓練、防災活動に参加しましょう)

大規模災害発生時には、「公助」による対応には限界があることから、住民が自らを災害から守る「自助」、地域社会がお互いを守る「共助」という防災の考え方の普及・啓発に努め、地域の防災力の強化することが必要です。過去の災害から防災活動への参加意欲を高め、防災訓練、防災活動へ参加しましょう。

1. 水害を知る

大雨をもたらす現象

積乱雲の発達

「大気の状態が不安定」なとき(上空に冷たい空気、地上に温かい空気の層があるとき)に発生します。

積乱雲が近づくとサイン

真っ黒な雲が近づいてくる。
急に冷たい風が吹いてくる。
雷の音が聞こえてくる。

前線の停滞、台風の接近

日本付近では6月頃に梅雨前線、9月頃に秋雨前線が停滞します。また台風は、進行方向に向かって右側に特に危険といわれています。

線状降水帯

線状降水帯とは、次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される線状に伸びる長さ50〜300km程度、幅20〜50km程度の強い降水をとらう雨域です。

大雨による被害

大雨が降ると、道路側溝にゴミなどが詰まり、うまく排水されず、道路に水がたまります。

川の水位が上がると水路が流れにくくなり、浸水します。

大雨が降ると、床上浸水、床下浸水のおそれがあります。

川の水位が上がりが、堤防を越えたり堤防が切れて、水が流れ出て浸水します。

コラム(雨の強さと降り方)

やや強い雨 1時間に10〜20mmの雨	強い雨 1時間に20〜30mmの雨	激しい雨 1時間に30〜50mmの雨	非常に激しい雨 1時間に50〜80mmの雨	猛烈な雨 1時間に80mm以上の雨
ザーザーと降る。地面一面に水たまりができる。長く続くときは注意が必要	どしゃ降り、傘をさしてもぬれる。ワイパーを速く回す必要	バケツをひっくりかしたように降る。道路が川のようになる	滝のように降る。水しぶきであたり一面が白くなる。視界が暗くなる	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。

3. 避難行動について

避難行動の種類

避難行動は「水平避難(立退き避難)」または「垂直避難(屋内安全確保)」があります。

水平避難(立退き避難)

今いる危険な場所から可能な限り速くにある安全な場所へ向かうこと。

大雨が予想されるときは、浸水想定区域(それ以外であっても、低い土地や地下空間)の外へ早く立退き避難。

垂直避難(屋内安全確保)

浸水による建物の倒壊の危険がないことを確認し、自宅や隣接建物の2階以上に避難すること。

既に浸水が始まっているときや夜間の避難は危険!無理に避難所などへ避難せず、建物の2階以上などへ垂直避難。

立退き避難について

町が指定している避難所に行くことだけが避難ではありません。立退き避難は下の3つの行動があります。普段からどこへ避難するか家族で決めておきましょう。

町が指定した緊急避難場所や避難所への立退き避難

開設情報を確認し、避難しましょう。

安全な親戚・知人宅への立退き避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。

安全なホテル・旅館への立退き避難

通常の宿泊料が必要ですが、事前に予約・確認しましょう。

避難するときは

歩きやすい服装で

荷物はリュックで両手を空ける。
履き慣れたスニーカーなど。
長靴は水が入ると滑るので避けてください。

側溝や、マンホールに注意

棒などでマンホール、危険物などがいないか確認しましょう。

冠水の危険想定箇所などに注意

地下歩道などは冠水しやすいので危険です。

2. 情報を収集する

警戒レベルと避難情報

大雨のときには、自ら情報を収集し、どのような避難行動をとるか考え行動することが重要です。適切な避難行動ができるように、5段階の「警戒レベル」を用いて、一人ひとりとるべき行動を平時のときから考えておきましょう。

警戒レベル	避難情報など	状況	住民がとるべき行動	防災気象情報※ (警戒レベル相当情報)
5 緊急安全確保 (町が発令)	災害発生又は切迫 ・避難所などへの避難が安全にできない可能性がある状況。など	命の危険 直ちに安全確保! ・命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保する。		・大雨特別警報 ・洪水特別警報 ・土砂災害警戒情報 ・土砂災害警戒区域(土砂災害警戒区域) ・土砂災害警戒区域(土砂災害警戒区域)
【警戒レベル4までに避難!】				
4 避難指示 (町が発令)	災害のおそれ高い ・河川の水位が急激に上昇している。 ・土砂災害警戒情報が発表されている。など	命の危険 直ちに安全確保! ・命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保する。		・土砂災害警戒情報 ・洪水特別警報 ・土砂災害警戒情報 ・土砂災害警戒区域(土砂災害警戒区域) ・土砂災害警戒区域(土砂災害警戒区域)
3 高齢者等避難 (町が発令)	災害のおそれあり ・河川の水位が急激に上昇している。 ・土砂災害のおそれが非常に高まっている。など	命の危険 直ちに安全確保! ・命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保する。		・土砂災害警戒情報 ・洪水特別警報 ・土砂災害警戒情報 ・土砂災害警戒区域(土砂災害警戒区域) ・土砂災害警戒区域(土砂災害警戒区域)
2 大雨・洪水・高潮 注意報 (気象庁が発表)	気象状況悪化	命の危険 直ちに安全確保! ・命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保する。		・大雨注意報 ・洪水注意報 ・高潮注意報 ・土砂災害警戒区域(土砂災害警戒区域) ・土砂災害警戒区域(土砂災害警戒区域)
1 早期注意情報 (気象庁が発表)	今後気象状況悪化のおそれあり	災害への心構えを高める		・早期注意情報 (警戒レベルの可能性がある)

※防災気象情報などの表記については、現在、気象庁および国土交通省で見直しを実施中であり、今後変更が予定されています。

キキクル(危険度分布)

気象庁がホームページで公開しているキキクル(危険度分布)では、大雨による洪水・浸水害・土砂災害の危険度を色分けして掲載しています。水害時に適切な避難の判断・行動にお役立てください。

例)大雨警報(浸水害)の危険度分布

危険度は5段階

1km四方の幅で色分け

災害は3種類
土砂災害
洪水
浸水

警戒レベル5
警戒レベル4
警戒レベル3
警戒レベル2
警戒レベル1

とるべき行動
命の危険 直ちに安全確保!
命の危険 直ちに安全確保!
命の危険 直ちに安全確保!
命の危険 直ちに安全確保!
命の危険 直ちに安全確保!

色がついている箇所はこんなところに注意!

土砂災害警戒区域などがけ・深溝付近
周囲より低い場所
洪水浸水想定区域
河川沿い

4. 大雨に備える

■情報を集める(情報の入手先をご確認下さい)

○テレビやラジオ、スマートフォンやパソコンなど、多様な手段で防災気象情報を入力する。

■ハザードマップを確認する

○ハザードマップで自宅の周辺の浸水被害を予測、避難所情報などを確認する。

■大雨から家を守る

家屋にある物を利用して、家屋への浸水を防ぎましょう。玄関などの出入口や、床下への浸水防止の対策を行いましょう。

ごみ袋による簡易水のう

ごみ袋を二重にし半分程度水を入れて、ダンボール箱に入れ連結します。

ポリタンクとレジャーシート

ポリタンクに水を入れ、レジャーシートで巻き込み連結します。

プランターとレジャーシート

土を入れたプランターを、レジャーシートで巻き込み使用します。

止水板

出入り口は長めの板などを使用して、浸水を防ぎます。

風呂の貯水

下水の逆流防止、生活用水としての利用などの利点があります。

トイレや洗濯機などの排水溝

水をいれたビニール袋をおいておく排水溝から逆流してくる泥水を防ぎます。

自宅や周辺を確認する

アンテナやエアコンの室外機などは飛ばないように固定

水が流れやすいよう、側溝や排水溝を掃除

植木鉢や物干しは固定するか室内に移動

プロパンガスボンベは壁に固定

屋根や塀の破損などを補強

情報の入手先

情報は皆さんを守る命綱です。テレビ、ラジオ、インターネットなどから正確な情報を入力しましょう。

テレビ(地上デジタル放送)

ご家庭のテレビのリモコンのdボタンを押すと1画面に情報が出ます。

ラジオ

通常のラジオだけでなく、パソコンやスマートフォンからも放送を聞くことができます。

インターネット

インターネット上では、様々な防災情報が発信されます。パソコンやスマートフォンを使いチェックしましょう。

- わが街ガイド浪江(防災情報) <https://www2.wagmap.jp/namie/>
- 防災情報(気象庁) <https://www.jma.go.jp/jma/menu/menuflash.html>
- 防災に関する情報(福島地方気象台) <https://www.jma-net.go.jp/fukushima/>
- 河川流域総合情報システム(福島県) <https://kasseninf.pref.fukushima.jp/gis/>
- 防災情報提供センター(国土交通省) <https://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>

浪江町からの情報伝達手段

浪江町からも以下の手段を使って、災害に関する様々な情報(避難情報など)を皆様にお知らせします。

防災行政無線

- 屋外スピーカーから放送を流します。
- 戸別受信機※をお持ちの方はそこから放送が流れます。
- 防災行政無線電話応答サービスでも放送された内容を確認できます。電話番号:0240-35-5160(通話料は有料です)

ヤフーサービス

- ヤフーサービス上でも町からのお知らせを確認することができます。町のホームページが繋がりにくいときに活用してください。

緊急速報メール

- NTTドコモ、au、ソフトバンク、ワイモバイル、楽天モバイルの携帯電話に送信されます。(情報は発信時点で町内にいる方に配信されます。)
- また機種によっては設定が必要なものや受信できないものもあります。

SNS(Facebook)

- サービスに登録し、フォローしていただく、ご利用いただけます。「つなごうなみえ」で検索してください。<https://www.facebook.com/tsunagaro.namie/>

メールマガジン

- 町のホームページからご登録いただけます。<https://www.town.namie.fukushima.jp/namie-ml/regist.html>

※戸別受信機は、1世帯・1事業所につき1台無償貸与しています。詳しくは、浪江町役場総務課防災安全係窓口までお問い合わせください。
※戸別受信機は、平成28年11月に機器を更新しました。現在無償方式でデジタルへ移行していますので、古い機器をお持ちの場合は新しい機器へ更新をお願いします。

■各家庭の備蓄品

備蓄品は、家族構成などを踏まえて必要なものを準備しましょう。備蓄品は最低でも3日分を、できれば1週間分程度備えておくとうまいでしょう。

食料

飲料水

工具

簡易トイレ

ラップ

紙の食器

衛生用品

介護用品、乳幼児用品、女性用品

バッテリー・充電器

燃料

救急用品

毛布・寝袋

携帯ラジオ

懐中電灯、ランタン、ろうそく、ライター

POINT 食品・水、日用品(紙類)などは普段から多めに買って置き、ローリングストック(ランニングストック)の形で備えましょう。

■非常時持ち出し品

非常時持ち出し品は、自宅を離れて避難する際に持ち出す最小限の必需品です。貴重品以外は、あらかじめリュックに入れ、持ち出しやすい場所に置いておきましょう。

☐ 食料(缶詰、アルファ化米など)	☐ 飲料水	☐ 着替え(防寒着含む)
☐ 携帯電話及び充電器	☐ ヘルメット	☐ 車手
☐ 懐中電灯・ランタン	☐ 携帯ラジオ	☐ ナイフ(多機能型のもの)
☐ タオル、ティッシュペーパー	☐ マスク	☐ 救急医薬品などの必要なお薬
☐ 生理用品、紙おむつなど	☐ 電池・バッテリー	☐ 健康保険証のコピー
☐ 現金・貴重品(預金通帳、印鑑など)	☐ その他必要なもの()	

※あらかじめ書き出しておきましょう